夏休みの思い出を守れ

折り紙を細くチョキチョキチョキ。
この短冊を、人数×５の枚数を用意しました。
学活の時間に、この短冊をおもむろに配りました。
「なになに？？」
と不思議そうな様子の子どもたち。

今配った紙に、夏休みの思い出を書きます。 １枚の紙に、１つの思い出を書きましょう。

この指示で、みんな一斉に書き始めました。
数分後。
全員が書き終ってから、ルール説明を行いました。

先生が今からみんなの紙に書いてあることを当ててみます。 当たりだったら、その紙を先生がもらいます。 先生のチャンスは 20 回。みなさんの大切な思い出はいくつ残るでしょう。

理解できた子たちはオォーと盛り上がりました。

１つ目　ゆっくり寝たこと

いましたいました。
「一個目からあたっちゃったー！」という何とも言えない笑顔で、ゆっくり寝た子たちが短冊を持ってきます。
このレクの良いところは、短冊を渡すというアクティビティを通して子どもたち一人ひとりの夏休みの様子が知れることです。
よく、長期休み明けには教卓周りにたくさんの子どもたちが集まって、

「先生、夏休みにこんなことがあってね・・・」
「先生、ぼくはね・・・」
と、さながら聖徳太子状態になることがあります。
教師の側からしても、久しぶりに会った子どもたちが次々とやってきては思い出を語ってくれるのは、嬉しいものです。
しかし、です。
教室には、いろんな子たちがいます。
およそ３０名もの子たちがいるのですから、真っ先に先生のところに駆け寄る子がいれば、その人波がおさまるのを待つ控えめな子もいて、そもそも自分からは先生に話しかけにいかない子もいます。
もちろん、それはそれで社会の縮図ともいえるのですが、やはり教室のリーダーである教師は、多くの子たちの思いに触れられるように気を配ることが大切だと思うのです。
久しぶりに学校が始まって、まだまだリズムをつかめない子だってきっといるでしょう。
とはいえ、全員とゆっくり話せる時間はありません。
そこで、今回のようなレクが活躍します。
楽しく活動をしながら、それぞれの子たちの思い出に触れられるようなフレームを作ることで、どの子も「先生に思い出を話すことができた」という体験を得ることができるというわけです。
しかも、周りの友だちとも夏の思い出を共有できます。
短冊を持っていく時に
「えー〇〇ちゃんも！」
「ぼくもゆっくり寝たんだよ」
なんて会話が起きるからです。
さらに、２０回先生がいう間に当たらなければ、最後に発表をしてもらうことになっています。
というわけで、レクは大盛り上がりで進みました。

２つ目　海にいったこと

アァ～という落胆の声と共に、笑顔で大勢が紙を持ってきました。
と来れば・・・

３つ目　山にいったこと

海よりは少数派でしたが、こちらもいました。

他にも、次々思い出を当てに行きました。

○ 川に行ったこと ○ スイカ割をしたこと ○ おじいちゃん・おばあちゃんの家に行ったこと ○ 映画を見たこと ○ 花火をしたこと ○ 友だちと遊んだこと ○ お手伝いをしたこと ○ プールに行ったこと ○ 宿題を頑張ったこと ○ 美味しいものを食べたこと

特に、「美味しいものを食べたこと」では一気に 3 枚紙を持ってくる子がいて大爆笑になりました。

最後に、次のように伝えました。

何枚残りましたか。 紙が残っている人は、どんな思い出か発表していきましょう。

いくつか紹介します。

○ 湖に行ったこと ○ お墓参りに行ったこと ○ クワガタをつかまえた ○ 魚釣りに行った ○ スライムを作った。 ○ 病気にかかって大変だった。 ○ 夜遅くまで起きてテレビを見たこと ○ サッカーの試合をしたこと ○ めだかときんぎょのお世話をしたこと ○ 新しいお友達ができたこと

一つ一つ発表を聞くたび「私も私も！」と盛り上がったり、「エライ！」と盛大に褒められたり、「それどういうこと？」と質問が上がったりと、みんなとても楽しそうな様子でした。

他にも伝えきれなかった思い出もあるかもしれません。

ぜひまたたくさん教えてくださいね。

尚、コスモスハーモニーへの投稿企画、早速続々とお便りをいただいております。

誠にありがとうございます。

ちなみに、おススメの本は最近になってから知ったものでも構いませんし、小さい頃の夏休みの思い出も、小学校の時期に限定しなくても大丈夫です。

「おすすめの本『〇〇〇〇』～～なところが面白いです。」のようにタイトルにたった一言添えていただく形で。

みなさんの、おすすめの本、または夏休みの思い出を気軽に教えてもらえたら嬉しいです。

① 小学生時代のおススメ本…「読書は、宝の山への旅」そんな言葉があります。新しい考え方に出会い、新しい言葉を知り、時には冒険し、時には迷い、そして時に感涙する。価値ある本との出会いは、人生を豊かにしてくれます。そこで、みなさんが小学生時代に読んだおススメの本を教えて下さい。「お父さんやお母さんが子供のころに読んだおススメの本」という言葉の響きは、子どもたちの読書熱をさらに高めてくれることと思います。

② 小さい頃の夏休みの思い出…先日、あるクラスの学活で「夏休みの思い出を守れゲーム」というレクを行ったそうです。自分の夏休みの思い出を 5 枚の短冊に書き、先生がそれを当てに行くというゲームなんですが、その中で外国人の先生が「スイカ割りをした人？」を尋ねると、なんと 1 人も手が上がらなかったそうです。夏休みの代名詞のようなスイカ割り文化も、現代では少しずつ変わってきているのかもしれません。そこで、お家の方々の子どもの頃の思い出をいろんな角度から教えていただければと思います。古き良き時代の文化に子どもたちが興味を持つきっかけにもなりそうです。

ちなみに私は以前、大学の恩師に次の言葉を教えて貰ったことがあります。

「大人同士が学び合う学校は、子どもたちにとって一番幸せなことです。大人たちの学び合う姿から、子どもたちは一層お互いに学び合おうとすることでしょう。」

ある授業を参観に来られた後に、メッセージという形でこの言葉を送ってもらいました。

私は、何度もこの言葉を読み返しました。

そして、深く感銘を覚えました。

最大にして最高の学習環境とは、空間でもなく教材でもなく「人」であると言われます。

例えば、「自己肯定感」という言葉があります。

私はいろんな場所でこの言葉について講演を依頼されることがあるわけですが、その際に

「子どもの自己肯定感を高めようとするならば、まずその近くにいる大人の自己肯定感を高める必要があります。なぜなら、最大にして最高の学習環境とは「人」だからです。自己肯定感は、雰囲気連鎖すると言われていて、近くにいる大人が自分自身のことをどのようにとらえているかというのが子どもたちの自己肯定感を育んでいく上で最も大切です。教室で考えるならば、その場所において最も影響力の強い大人、つまりは教師自身の自己肯定感を高めていく必要があります。」

という内容をよくお伝えしています。

昔から「背中の教育」ともいいますが、自己肯定感だけでなく、身近な大人がどのように他者と関わり、学び、生きているかという姿勢は子どもたちに極めて大きな影響を与えるものです。

この投稿企画も、楽しく意見を交換したり語らったりする中で、いくつになっても学び合うことの価値や素晴らしさを子どもたちに伝えられるきっかけにできたらいいなぁと思っています。（渡辺道治）

↓↓↓ご参加、お待ちしています↓↓↓

１学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ (google.com)